



RSNA2018@Chicago, USA

帝京大学大学院 保健学研究科 講師 亀澤秀美(2018年1月)

2013年4月社会人入学～2017年3月博士後期課程卒業

私は、2013年4月から2017年3月までの4年間社会人大学院生として有村研究室にお世話になり、「画像誘導患者位置決めシステムのためのノイズ抑制フィルタを用いた被ばく線量低減の可能性」について研究を行いました。

私が社会人大学院生として学んだことは、ノイズ抑制フィルタ処理やそのプログラミング、ノイズ低減手法の基礎と最先端の知見、コーンビームCTの線量測定法、データの解析手法など研究テーマに関わることだけでなく、問題解決能力や英語力など多岐にわたります。また、研究室には個性や国際色豊かな多くのメンバーが在籍しており、ディスカッションをしながら研究を進めることができ、博士号取得までに、国内学会5回、国際学会3回の学会発表をおこない、2度の賞を頂きました。これもひとえに有村先生のご指導、研究室メンバーのご支援の賜だと感謝しております。

入学当初は宮崎県にある病院で診療放射線技師として放射線治療業務に従事していましたので、大学院へ通う日には、午前中だけ勤務し、午後に有給休暇を当てながら講義や研究ミーティングに出席しました。また、自宅から大学までは高速バスで往復7時間でしたので、通学にはかなり苦勞しました。帰宅する際は日が変わる直前だったことを思い出します。仕事の都合で研究室に顔を出せない時でも、skypeによるミーティングにより、熱く指導していただきました。

2014年10月には研究内容をまとめ、*Physics in Medicine and Biology* 誌に投稿しましたが、エディターおよびレフェリーとのやり取りを5度繰り返し、1年5ヶ月の歳月をかけ2016年3月に無事にアクセプトされ、博士号を取得することができました。有村先生や研究室のメンバーに支えられながら情熱を絶やすことなく研究に取り組むことで、世界中の人から見られる可能性のある国際雑誌に載せることができたことが大学院での最大の思い出です。社会人大学院生として博士号を取得するために必要なことは、仕事と研究とを両立させるための気力と研究内容を論文化する情熱をもつことです。また、博士号取得がゴールではなく、研究者としてのスタートであることも教わり、今後も気力と情熱をもって研究を続けていきたいと思っています。